

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070402393		
法人名	株式会社さわやか倶楽部		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区神岳2丁目10番14号 (電話) 093 - 513 - 8887		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年5月28日	評価確定日	6月27日

【情報提供票より】(平成19年5月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	半耐火構造造り 3階建ての2階～3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(平成19年5月18日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小文字病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州市小倉北区の都心部・街なか位置するグループホームである。街なかの利便性を活かし、入居者の嗜好に応じて本屋や喫茶店・ラーメン屋など気軽に訪れることができる環境にある。グループホームは3階建ての建物となっており、1階は駐車場、2階・3階はグループホームとなっている。1階の駐車場は、鉢物の観葉植物や花が置かれ、季節を感じる事ができる魅力的な空間となっており、家庭的な環境づくりに努力されている。また、グループホームの共用空間も観葉植物や花で彩られ、季節を感じる工夫を行っている。特性としては、入居者の食事の面で彩りや食べやすさ・季節の旬の物を取り入れ、品数も多く、食事を楽しんでいただくように配慮されている。外食も月2回取り入れ、入居者の食の楽しみに力を入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 家庭的な環境づくりの面で、近所の方や家族が気軽に出入りできる雰囲気づくりが課題となっていたが、1階の駐車場や玄関において花や緑を活かした取り組みを行い、調査当日もプランターに職員と入居者が花植えに専念され、うらおいのある空間づくりに努力されていた。また、外出の機会を増やすなど課題解決に向けた取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、今回の評価を受け、各階の事務室入口にも開示し、今後の改善に向けて取り組むことを目標に自己評価の検討を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進委員会は2ヶ月に1回開催され、人事異動の説明や行事の説明、ボランティアの協力依頼や事故報告などをテーマに意見交換や要望をお聞きし、その内容をサービス向上のために活かしている。今後は、グループホームが持っている認知症の知識や介護の方法などの研修会の開催などが出来れば、より地域へ向けた情報発信が可能になると考えられる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関には意見箱を設置している。また、家族には、気軽に意見・苦情・不安を職員や管理者に話していただけるように働きかけ、苦情や意見は「苦情受付・処理書」に記録され、処理経過・結果及び今後の対策まで、一連の流れが明記され、運営面での改善を行う仕組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 校区の月1回のふれあい昼食会の参加や体育祭の参加、近隣保育園での年末の餅つき大会に積極的に参加している。日常的には町内会に入会しており、清掃活動にも参加し、日常的な交流も行っている。また老人会にも参加し、行事にも積極的に出かけている。今後は、高齢者ケアの中核としての機能が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慈愛の心、尊厳を守る」という理念を掲げ、精神的に安定し、健康で自分らしく過ごせるように支援している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現を図るために、入居者への声かけは基本的に丁寧語を使い、職員の言葉の乱れがないように配慮している。また、入居者を人生の先輩として敬い、日々の暮らしの中で、入居者の役割や楽しみが見い出せるように理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市民センターで開催される「ふれあい昼食会」に2ヶ月に一度参加し、町内会・老人会活動にも参加している。また、地域の体育祭や餅つき大会などにも参加、地域の清掃活動にも参加し、グループホーム周辺の地域社会とのネットワークを築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、昨年の評価結果は職員会議をはじめ、家族や運営推進委員会にも周知し、改善に向けた取り組みを行っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営における取り組みの実際として、行事や外出レクなどの報告・人事異動・事故やヒヤリハットの報告・ボランティアの依頼など、状況に応じて、テーマを設定し意見交換を行い、サービス向上のために活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に相談したり、指導を仰いでいる。運営推進委員会に所轄の包括支援センターの職員に出席していただき、相談や助言など連携を取っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	職員は研修会に参加するなど、情報提供できる状況はあるが、家族の方が遠方の方が多く、情報提供は難しい面がある。今後は、家族会を通じて制度の理解を高めるために情報提供を行っていく方向にある。		家族会を通じて、制度の理解を啓発し積極的に情報提供を行っていく方向にある。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、かがやき新聞を作成し、家族へ郵送している。その他に日々の暮らしの様子は、個別に絵手紙で受診結果や健康状態・金銭管理・職員の異動など定期的に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情処理窓口を設置し、家族や入居者が意見や苦情を言いやすい環境づくりを行っている。入居者・家族からの意見・苦情は、「苦情受付報告書」に書かれ、処理経過・結果及び今後の対策など一連の記録があり、職員全員で改善に向け取り組んでいる。		入居者や家族の意見や苦情は、その内容や対応が記録され、職員間での情報の共有化を図っているが、家族への説明責任として、了解を得られた状況などの記録を充実されると、家族の安心がさらに高まるものと考えられる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職を必要最低限に抑える努力をし、代わる場合の引継期間を考慮している。また、代わる場合は、家族への報告も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用基準はヘルパー2級以上としているが、性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。定年制を65歳としているが、能力や希望により勤務継続が可能である。職員の能力向上や働く意欲に関しては、業務日報を毎日提出することになっており、運営者が目を通し、職員への励ましや助言など向上心を持って働けるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育は、新人研修の際にマニュアルにて学べるようにプログラムを組んでいる。また、「慈愛の心・尊厳を守る」という理念は、人権尊重を含めた理念として職員間で共有化されており、理念にそった対応ができているかを常に確認している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループ内に研修制度があり、社内研修は定期的に行われ、参加できるように職員のシフト調整を図っている。また、研修費がかかる場合は、会社が半分負担するなど、積極的に研修受講を進めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	サービスの質の向上を図るために近郊の事業所と提携を結んでいる。今後は、提携のもと、情報交換をはじめ、ネットワークを活かした取り組みを積極的に行う方向にある。		他の事業所との提携により、さらにサービスの質の向上が期待される。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	一日体験入居をしていただき、場の雰囲気になじめるように、これまで使って来た物を持って来ていただくなど、家族と相談しながら支援している。また、特に他の入居者との関係づくりに配慮し、職員が間に入り、入居者同士をつなぐ役割を担うようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している			
0					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	料理が得意な方には、下ごしらえや盛りつけ・片づけを手伝っていただき、園芸やお茶・書道など得意な場面で暮らしの中で活かし、職員と共にお互いに助け合いながら生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式のアセスメントを導入し、入居者一人ひとりの思いや暮らし方・希望を記録している。また、好きなことや趣味を活かす場面、入浴・散歩の際には、個々の入居者の希望や意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	センター方式を利用し、入居者が「私らしく、安らかに、生き活きと」暮らしたいケアプランを本人の意見に重点をおき、家族と話し合い、アイデアや意見を反映して納得いただける介護計画を作成している。		3ヶ月の短期目標に関して、具体的な支え方・対応が求められ、また、一人ひとりの個別性に向けて、日々、身体機能を維持し、地域で楽しめる生活を支援する取り組みが求められる。日々の介護記録に内容の重複が多く、職員の負担が大きく、記録の簡略化が求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、どんな事でも変化があれば家族への連絡・報告を行い、現状に即した新たな介護計画を家族や関係者と話し合い作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家庭で生活しているような自由な生活を旨として、天気の良い日はドライブへお連れするなど、いつでも入浴できるような支援を心がけている。		個々の満足が高められる柔軟な支援が求められており、入居者の個々のニーズに対して特別な外出支援や外泊支援などが求められる。
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。また、月2回提携している病院より訪問診療を行い、入居者の多くが利用している。緊急時には、近接している総合救急病院があり、連携室との関わりを大切に、安心して適切な医療が受けられるように医療体制が構築されている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	現在、重度化・終末期の入居者はいないが、研修により対応策を検討し、体制づくりを行うことが必要であると考えている。		重度化や終末期に向けての医療を含めた連携体制づくり・関係者全体の方針の統一など、方針や支援の具体的内容など検討していくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシー - を損ねるような言葉かけや対応、記録などの個人情報の取り扱いに関しては、管理者や職員相互で注意しあい、誇りやプライバシーを大切にするように支援している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	起床や食事の時間は制限を設けていない。一人ひとりのその日の望みを大切に、趣味や得意なことや好きな時に出来るように支援している。街なかの利便性を活かし、本屋への買い物、喫茶店でのコーヒータイム、ラーメン屋での飲食など個別に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の食べたい物を把握し、1週間ごとのメニューを作成している。また、台拭きをしていただいたり、下ごしらえや配膳・片づけ・洗い物まで、職員と共に行っている。長時間立位が困難な方には、イスに腰掛けていただいている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者一人ひとりに入浴の希望時間を確認し、希望の時刻に入浴していただいている。入浴を拒む方には、声かけに工夫し、気持ちよく入っていただけるように支援している。イベント湯として、バラ湯・みかん湯・温泉湯など、入浴を楽しめるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	魚市場で働かれていた方は、魚をさばいていただく機会を作り、お茶やお花の得意な方は、お茶会の開催や花を活けていただく機会を作っている。また、行きたい場所へ買い物に行ったり、ドライブへお連れしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外食日は月2回設け、好きな物を食べていただける様に支援している。また、散歩は毎日声をかけ、希望にそって支援している。食材やおやつのお買い物も声かけを行っている。季節ごとには、豊かな自然を満喫できる場所やレジャースポットへお弁当を持ってピクニックを楽しむなど支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	街なか立地で、傍らには幹線道路が通っていることから、玄関の鍵は、家族要望として鍵をかけてほしいという意見があるが、職員全員が鍵をかける弊害も理解しており、玄関開放の時間を細かく設定し支援している。また、エレベーター前に立つとチャイムが鳴るなど、入居者の外出を察知する工夫を行っている。		玄関には、できるだけ鍵をかけない状況を作るために、玄関口での園芸を楽しむ時間の確保や散歩時間を多く取るなど努力している。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防避難訓練は2ヶ月に1回定期的に行い、職員が適切な判断・処置・誘導ができ、入居者が非難できる方法を身につけられるように支援している。また、年2回の消防署立ち会いでの訓練も実施している。		今後は、非難訓練時には、近隣の住民の協力が得られるように働きかけていくようにしている。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養の摂取量はおおよそ把握しており、バランスの取れた献立に工夫を行っている。食事量は3食の摂取量を記録し、水分は毎食時、午前・午後のおやつ時・入浴後・夜間の補水など摂取量を確認しながら支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、ふんだんに花や観葉植物があり、ソファやテーブルは暖かいイメージの布が掛けられ、家庭的な環境づくりを行っている。また、入居者の写真や手作りの作品が壁に掛けられ、色とりどりの楽しい空間づくりに努力されている。また、昭和の時代を象徴する、なつかしいポスターも掛けられていた。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は仏壇・箆笥・ドレッサーなど、入居者のなじみの品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			